

平成20年4月

新市の一体感の醸成について

二見地区地域審議会

二見地区地域審議会委員名簿

本答申の審議に参加した委員は次のとおりである。

委員	◎北岡 孝敏	北井 伸治
	○酒徳 孝	北村 峯記
	松本 徳男	宮後 朝訓
	濱千代利弘	柏端 長一
	松本 誠	須崎 京子
	奥野 雅則	八木 直己
	橋本 清美	濱條 幸久
	中村 恒	

(◎は会長、○は副会長)

はじめに

本答申は、平成18年10月の諮問に基づき、二見地区における、新市の一体感の醸成について検討を行いました。

各委員から、二見総合支所は新市の位置づけとしては「当分の間、歴史、文化、観光の拠点とする」とされており、また市長のマニフェストの中でも伊勢における観光地としての二見の存在を示すことが出来るのは、やはり観光ではないか、という意見が多く出されたため、伊勢市の観光振興に対する二見地区の関わりという視点から議論をいただきました。

より具体的なお意見をいただくために観光交通部が作成し、研修の資料とさせていただいた「伊勢市の観光振興(基本方針と施策)」を基に議論を進め、これまでの二見の観光施策とそれを改善し今後二見が出来ること。これを当委員会の観光施策における新市の一体感の醸成に対する考え方として具申したい。

1 市民力を活用した観光戦略の推進

(1) 市民と観光関係者、行政の協働

① 観光活性化プロジェクトの推進…既存組織の在り方

を見直し市民力を結集

二見浦観光協会が統合されたことにより、核となる組織がなくなり益々観光従事者間の連携と市民との協働の必要性が求められている。

市内では地域再生に向け、観光関係者の組織や異業種の方々に組織する会などでまちづくりについていろいろな議論がなされ、イベントの開催を行っているが、観光に従事している人たちが何を目指しているのか、どういう考えでいるのか、その顔が見えてこない等の意見もある。

観光関係者がもっと危機感をもち、一つでも多く市民の方々と協働でイベントを行うことで自らの意識改革を図っていくことが大切である。

② 人材の育成と連携…外部情報収集に努め人材育成を積極的に図る

・観光に携わる若い世代が少ないのが現状で、後継者不足も

問題になっている。特に土産物店は高齢者だけで営業をしているのが現状で、一旦出て行った若者が戻ってくるような魅力ある町づくりが必要である。

・合併しても、二見は二見、宇治は宇治、河崎は河崎…といったように、観光プロジェクトが点と点になっていて、情報交換の場が少ないため線や面になっていかない現状にある。また、人材不足から地元のことだけで手一杯ということもその一因になっている。

(2)もてなしの醸成

① 観光関係者及び市民のもてなし心の向上

… “もてなし” の原点のまちとしての教育

・未だに観光産業最盛期の頃の接客方法で対応している観光従事者がいる。オーナー、従業員の教育システムの構築、また自治会、市民の来訪者への研修も必要である。また、修学旅行の小学生相手の土産物店では一般客相手の商売を意識していない。修学旅行の時期以外に店をあけることはもちろんのこと、一般客への接客に努力してもらいたい。

② 観光ガイドの充実…ガイド養成講座や小学校に観光教育 の導入

・「二見浦まちなみ案内人の会」を立ち上げ、活動をしているが、拠点がない上、仕事をもちながらの案内人が中心であるので、「NPO 法人二見浦・賓日館の会」や老人会等の協力を得て、ガイドの養成が必要である。

・二見小学校では総合学習の一環として、町の観光について学習し、その振興策などを学校新聞やイベントの際に発表している。

2 伊勢の特性を生かした観光振興

(1) 神宮を核とした賑わいの創出

① 神宮式年遷宮を契機としたまちづくり…伊勢らしいまちづくりの推進

・お木曳では一日神領民の宿泊の大半が鳥羽・志摩となった。宿泊を伴わない集客では二見の存在意義がない、お白石持ちまでに宿泊を増やす政策への方向転換が必要である。しかし、旅館の施設面の整備については、かなりの資金が必要でそれを貸す金融機関がない、あっても返済のめどが立たない

の多くの旅館の現状である。

② 神宮関連施設の有効活用…神宮徴古館等との連携

- ・町内各旅館において宿泊客にも積極的にPRが必要である。

③ 伝統行事を活かしたまちづくり…伝統行事の情報発信

- ・夫婦岩大注連縄張替神事、二見大祭しめなわ曳、高松稻荷大祭といった茶屋地区だけではなく、湯立神事、姫宮稻荷祭といった他地区での伝統行事も、紹介の仕方一つで誘客につながる。

- ・おひなさまめぐりや七夕・星まつりなど、新規のイベントも続けていけば伝統行事になる。

- ・市内各地の観光情報が分かるようにイベントカレンダーを普及させる必要がある。

(2) 恵まれた資源の観光的活用

① 自然環境及び歴史文化資源の活用…歴史的資源と自然との

関連研究

- ・「二見の花めぐり(音無山の桜、太江寺の藤・紫陽花、二見しょうぶロマンの森の花菖蒲など)」「奇岩めぐり」「西行・芭蕉の足跡を訪ねて」「中村左洲」などといった資源の有効活用。

- ・今一色の漁港（のり養殖設備）見学、西のビニールハウス農園見学（体験）など。

- ・賓日館の有効活用（体験的事業も含めて）。

② 名勝・天然記念物の活用

- ・【清渚・二見浦】の白砂青松を維持するためには、海岸及び公園の環境美化の徹底が必要である。

- ・夫婦岩のライトアップ、日の出、月の出などの演出と情報発信。

③ 世古の活用…散策ルートとして世古道を活用

- ・旅館の間にある海岸への世古道の清掃と旅館側の景観への配慮が必要である。

④ 河崎商人館を中心とした勢田川流域の活用…勢田川の水運

を活かしたまちづくり

- ・二見地区では木造船「みずき」に対する認識が浅いので情報の把握と旅館でのPRが必要である。

(3) 観光イベントおよび伝統文化による振興

① 各種観光イベントの開催

- ・市内各地で様々なイベントがあり、観光振興に役立っている

るが他の地域との連携はまだ不十分で、相乗効果で伊勢市全体が盛り上がるシステム作りが必要である。

(4) 地区の特性を生かした観光振興

① 地域の特性を生かした観光…宇治地区、山田地区、河崎地区(宇治山田港湾地区)、二見地区、小俣地区、御園地区

・二見地区における観光キーワードとして以下のものがあげられる。その中にはうまく活用されているものもあれば、活かされてないもの、全く活かされてないものもあり、今後の課題になっている。

ア) 歴史遺産

○夫婦岩○興玉神石○賓日館○御塩殿・御塩浜○神宮御園
○二見神社○太江寺○二見興玉神社・龍宮社・天の岩屋
○姫宮稻荷神社○明星寺○安養寺跡○日本最初の海水浴場・海水温浴所○松下社と蘇民の森

イ) 史跡(遺構)等

○奇岩・謂われ石(潜島・猿田彦石・力石・硯岩・割れ石)
○藤堂藩砲台跡○花房志摩守碑○安養寺跡(西行庵)

ウ) 地場産業

○今一色の海苔○サザエの壺焼○宿泊業(旅館・民宿)○潮風
呂○松下のはさ掛け米○五峰庵○西のハウスいちご○御福
餅・酒素饅頭・くうや餅・塩羊羹・岩戸の塩・真珠漬・菊
一文字則宗○江の味噌・醤油

エ) 町なみ景観等

○夫婦岩から日の出・月の出○音無山(桜)○太江寺の藤・紫
陽花○夫婦岩表参道(旅館街)の町なみと妻入りの民家・木造
三階建ての旅館○清渚・白砂青松と句碑・歌碑○二見しょ
うぶロマンの森○五十鈴川と秋の月○夜光虫が光る海○松
下や三津・西のホタル○高城浜と打越浜○伊勢の浜荻○江
の蒔絵松○松下社の大楠○西の大楠○荘の神の木○江の味
噌蔵○荘・西などの植垣

オ) 祭り・伝統芸能等

○二見大祭しめなわ曳と夫婦岩大注連縄張替神事○蘇民将
来子孫家門○二見かえる○藤まつり○松下の弓祭り○貝合
わせ○西の箕獅子○注連縄打ち○湯立神事○初観音・火祭
り○藻刈り神事○無垢鹽草○御塩殿祭○おひなさまめぐり

in 二見○二見七夕・星まつり

カ) 人物・物語等

○倭姫命と佐見津日女命・佐見津日子命・荒崎日女及び御
塩殿・堅田神社・江神社・神前神社○伊勢三郎義盛○西行
法師○鴨長明○松尾芭蕉○中村左洲○花房志摩守

キ) その他

○修学旅行○夢ぎゃらりい二見

3 観光基盤の整備

(1) 受入環境の整備

① 伊勢市駅前の周辺整備…案内機能の充実

・伊勢市駅から徒歩圏内の外宮の参拝客が激減しているのも
駅前の活性化が遅れていることが大きいのではないか。神宮
も内宮だけではなく外宮と一体となって初めて伊勢市全体の
活性化の繋がることを考えると、駅前の再開発は遷宮に向け
ての最重要課題になる。

・二見地区としては、伊勢市駅もさることながら、JR 二見浦
駅前の再開発も重要課題としてもらいたい。

② 豊かな自然風土と個性際立つ歴史文化を活かした風景まち

づくり…景観を重視した基盤整備

・二見には、昔ながらの建物が残る夫婦岩表参道の旅館街はもちろん、荘から西地区にかけての田園風景や榎垣の家屋、江地区の味噌蔵、白砂青松の清渚・二見浦(御塩殿内の松林、打越浜や高城浜を含む)、五十鈴川(御裳裾川)沿岸等、個性的で豊かな自然風土、歴史文化に裏打ちされた風景が数多く残されているが、その多くが危機的状態にある。こうした光景を今あるまま保存していくためには、行政の援助も必要である。

③ ユニバーサルデザインの推進…人にやさしい観光地づくり

・宿泊施設などではハード面の整備に多大な費用がかかることもあって、ユニバーサルデザイン化はなかなか進んでいないのが現状である。

・歴史文化を生かした施設・建物を保存・維持管理していくことと、施設のユニバーサルデザイン化は相反する方向になることが多い、こうした面でうまく両者を調和させることが必要である。

④ 宇治山田港湾周辺地域の整備…日本の入口、海の玄関口とし

ての整備

- ・二見の白砂青松を船で海側から眺めることができれば、新しい切り口の観光材料となる。

現在二見浦海岸で工事中の突堤は、断面がなだらかな山型ということで船着場としては不向きだが、どこか寄港できる場所を造れば、昔の観光遊覧船のように観光客のニーズに結び付けられる。勢田川の木造船への観光ニーズが高いことを考えると、これをリンクさせて海からの観光が可能になる。

- ・セントレアとのターミナルについては、代替事業者を早期に探すこととし、その施設の有効活用に努めてもらいたい。

⑤ スポーツ及び文化交流・誘客基盤の整備

- ・老朽化している古市の市営テニスコートの代替設備整備、朝熊山麓公園周辺のフットボール場整備、大仏山公園周辺の野球場整備。こうした基盤整備とそれに伴う大会等の誘致は奨励すべきことであり、サンアリーナを含め、各種大会、合宿での利用者の宿泊は隣接する二見地区にとっては重要な要素で、これによる経済効果は見込める。

⑥ 名勝・二見浦のグレードアップ…旅館街の魅力アップを図る。

・平成 14 年度から始まった二見浦まちなみ環境整備事業は町の入口である総合駐車場の整備を残すだけとなっています。

この事業のサブテーマでもある“そぞろ歩きが似合うまち”づくりに総合駐車場の完成が不可欠であるため早急な整備を望みたい。

・名勝指定を受けた地域が観光地としてのグレードをアップさせることは当然のこととは思いますが、それではいったいどのようなようにしてグレードアップさせるのか。また、グレードアップされた状態とはどのようなことを指すのか。こうしたことによって、地元の観光業者からは種々の意見が出ることと思う。

宿泊施設にしても 1 泊 2 食で 3 万円取れる高級旅館化を想定しているという。現在二見には 14 軒の旅館があるが、こんな高級旅館は需要の関係から 5, 6 軒が限度。ということでは 10 軒近くは商売替えの必要が出てくるということになり、廃業した旅館の建物または空地の問題も新たに出てくる。いくら旅館が高級旅館に再生したとしても、物産店や飲食店な

ど町なみの雰囲気はすぐわかないものではない。民間資本は採算性シュミレーションでプラスにならないことには投資が期待できない。こういった形で公的資本が補えるか、明確にならないと先は見えてこない。

(2) 交通環境の改善

① パーク&ライドの推進…渋滞対策

・正月の神宮参拝客には非常に良い施策だったと思う。ただ、シャトルバスの停車場所が「おほらい町」を通り越して内宮前に行ってしまうため、「おほらい町」の賑わいがそれまでより低下し、その分、観光客のお金が地元には落ちていかない現状がある。

② 交通のネットワーク強化と利便性の向上…公共交通機関の利用促進

・二見への入込客については、8割はマイカーという現状でもあるが、JR参宮線が1時間に1本程度で、しかも伊勢市駅での近鉄特急との乗り換えが時間的に不便なことが多い。また、路線バスの本数が少ない上に、CANバスを含めて最終便の時間が早い。こうしたことから、観光客に公共交通機関の

利用奨励がしづらい状況にある。近鉄・JR・三重交通の三社の相互協調により、より相互利用の利便性を図れるよう行政からの協力もほしい。

・モーターレーゼーション重視の観点から JR 参宮線廃止の声もあると聞くが、沿線地域住民、観光業者としても論外な話。むしろ、風が強くなると運転休止になる参宮線の改善や「快速みえ」の内容拡充、紀州方面との直接往来ができる快速列車を導入する方が伊勢の観光にとって、より効果、実益があると思う。

③ 交通情報の充実

・名古屋方面と二見との往来に関して言えば、近鉄利用より JR 参宮線「快速みえ」利用の方が時間的にも経費的にも観光客に有利であるが、観光客にはそのことがあまり知られていない。

・観光ポイントや見学地(内宮、外宮、二見、河崎等)を結ぶ公共交通機関のダイヤ・経費・所要時間を記したアクセスマップがあれば便利で、公共交通機関の利用頻度も高まる。

・第二名神高速道路、東海北陸自動車道が開通し、京都・滋賀方面及び石川・富山方面から伊勢までの乗り入れが近くな

る。どれくらいの時間が短縮できるのか、それによってどの程度の観光ができるのか情報発信し、観光客誘致に役立てることが必要である。

(3) 来訪者の安全対策の確立

①観光地域等における防災対策

・修学旅行で二見に来ていただいている小学校から、旅館の地震、津波対策について問われ、二見町旅館組合の申し合わせ事項や防災計画書、避難経路図を提出した。行政で作っているハザードマップの確認や情報伝達、避難場所への誘導訓練など各観光施設において準備は万全を期する必要がある。

②災害時の情報発信と共有…観光施設の情報ネットワーク化

・三重県旅館組合ではある程度ネットワーク化された情報ルートがあり、無銭飲食などの旅館荒らしやNO-SHOW情報などは共有化できるようになっているが、市内の観光施設同士、行政と観光施設といった中での情報共有化ネットワークは構築できていないのが現状で、整備が急がれる。

4 地域産業との連携

(1) 観光産業の振興

① 宿泊産業における新たなサービスの提供…泊食分離や昼食 提供等

・各旅館とも1泊2食の形態にこだわらず、1泊朝食、素泊まりといった宿泊プランを作っているが、完全な泊食分離までは至っていない。今後は、客に1泊夕食、1泊2食等といった組み合わせを自由に選べるようにすることも必要になってくる。

② 伊勢ブランドの推進…地域特産品のイメージアップ

・現在「三重ブランド」として真珠、ヒノキ、松坂牛、ひじき、伊勢エビ、伊勢茶、アワビ、南紀みかん、的矢カキの9品目が認定されているが、同様に「伊勢ブランド」を創出し「地物一番」ということで宿泊施設や飲食店が地産地消を心がけるとともに、行政もこれからの特産品を積極的にPRする必要がある。

(2) 観光資源の活用

① 体験型観光の推進

・修学旅行で実施している「地引網」体験事業は天候に左右されることからしだいに需要が少なくなってきた。その理由として今一色の漁師は海苔養殖が本業で、漁獲は本業ではないので、魚屋から仕入れた魚を使っただけの対応となる。また、中止になった場合の代替行事や経費の問題等があげられる。

こうした現状から、修学旅行生向け体験学習を二見町内で数種類体験できるようにし、「伊勢型紙」「お菓子づくり」「塩づくり」等、体験型のテーマごとのモデルコースや「町ごと体験館化」構想を具体化し修学旅行生を呼び戻す手法が必要である。

② まちかど博物館の有効活用

・二見のような古くからの観光地で、しかも観光資源となる材料が豊富にあるところで、「まちなみ博物館」がない地域も珍しい。既存の建物を有効活用するなどして「まちなみ博物館」の整備を進めてほしい。二見に必要な施設は、「二見の歴史と生活博物館」「西行記念館」「中村左洲記念館」「修学旅行記念館」「二見大祭しめなわ曳記念館」「二見の旅館宝物館」「海水浴場記念館」が考えられる。

(3) 新たな観光メニューの確立

① ニューツーリズムの創出と推進…「健康、食育」「環境、自然」「教育、体験」

- ・二見は海水浴場発祥の地であり、当時の海水浴場は治療目的であった。海水は皮膚病に治療効果があるとも言われており、塩風呂等を利用する治療目的であれば長期滞在にもつながる。

- ・鳥羽では新しい試みとして「糖尿病患者」の観光客に糖尿病対応料理を提供するというツアーを実施しマスコミにも取り上げられ好評だった。これは団体客対象であったが、伊勢・二見のような小規模の旅館では機動力・細かな対応が生命線なので、数人のグループ客や二人連の一人がそうであっても受け入れられる対応が必要である。

- ・「環境、自然」というテーマで言えば、これからは「ビオトープ」も観光の一つの切り口になると思います。ひと口に「ビオトープ」といってもいろいろな選択肢があり、簡単なものから取り組んでいき、それが広がっていけば重要な観光資源になる。

② サイクリングやウォーキングによる周遊観光の推進。

・二見はその規模、交通状況からサイクリングやウォーキングに適した環境にあり、休日には多くのウォーキング客が来訪している。こうしたウォーキング客は近隣からの日帰り中心で観光に繋がっていないのが現状だが、こうした環境を PR するとともに、大会を企画・誘致することで観光につなげていくことも必要である。

・ウォーキングに適したコースをいくつか設定し、それを紹介するパンフレットや掲示板を作成するとともにコースの整備を行い、PR をする必要がある。

・二見の場合、現状では温泉を取り入れた施設はホテル清海と民宿まるやの二件だけだが、ボーリングをするには億単位の費用がかかり、温泉設備を維持していくには施設の規模にもよるが年間数百万から数千万の費用がかかり、運び湯ではオリジナリティに乏しいので、これに代わる人工温泉化等の手段を講じていくことが必要である。また、潮風呂と外湯も地域ぐるみで考えていく必要がある。

5 効果的な情報発信と誘客戦略

(1) 戦略的な宣伝活動の展開

① 神宮式年遷宮と関連諸祭行事の PR

- ・ 遷宮に関する諸行事の対外的な積極的な PR は確かに大切ではあるが、お白石持ち行事までは対外的 PR による観光への効果が期待できる行事はあまりないのではないか。
- ・ お白石持ちへ参加する一日神領民に対する PR の際には、できれば「本来は伊勢・二見という神領地に宿泊してこそ一日神領民になれる」旨の PR を展開してもらいたい。

② ホームページの充実

- ・ 伊勢市は古くからの全国に名だたる観光都市であるが、本来、活動の中心になるべき観光協会の活動の動きがいいとは言えない、遷宮に向けて市の HP で観光に重点をおいた構成をとってもらいたい。

③ 観光パンフレットの充実

- ・ 現在行われている「伊勢観光政策振興会議」「伊勢観光活性化プロジェクト会議」においてパンフレットやチラシを作成しているが、行政側からの視点ではなく市民からの視点で作成

された観光パンフレットや観光資料があれば、よりピンポイントな観光 PR ができる。

④ 大都市圏に向けたキャンペーンの実施…大都市での情報発信活動

・インパクトのあるもの、地方色が豊かに出ていて、それが大都市住民に共感を得られるものを積極的に展開していく必要がある。

⑤ 観光大使・観光御師制度の活用…大使による情報発信と御師による誘客

・有名人がマスコミで地元を PR する効果は大きいので、この点は大いに力を入れてほしい。また、こうした、大使・御師がどのような場面でどのような活動をしているのかが、地域住民に伝わってこないなので、市民への情報発信を徹底してほしい。特に、観光御師の制度自体はあまり知られていないし、スポーツ選手や芸能人と違ってマスコミへの露出度が少ないので、実際の活動が余計に見えてこない。この点に関する情報をもっと積極的に提供する必要がある。

⑥ 旅行商品の企画と販売…三重県観光販売システムズとのタ

イアアップ

- ・三重県観光販売システムズの見解として、鳥羽・志摩の宿泊施設としてハード面での充実度に劣る伊勢・二見の旅館には、より一層の代金の低廉化やプラスアルファの顧客サービスを求める傾向にあるが「おひなさまめぐり IN 二見」「二見七夕・星まつり」をはじめ、特定日のみのイベント(「神宮奉納花火大会」「二見大祭しめなわ曳」等)に関しては、地域優先の企画設定をしてもらうよう、行政からの働き方も願いたい。

- ・三重県観光販売システムズには、JTB や Knt ! 等の大手エージェントではできない地域密着型、ニッチ型の企画商品設定の提案をしてもらいたい。ハード面では劣る宿泊施設でもエージェント側としては、どういった企画なら売りやすいかという観点から、伊勢、二見両旅館組合や伊勢二見民宿組合への働きかけがほしい。市としてもそれをバックアップする態勢作りを整えてもらいたい。

(2) 情報提供システムの構築整備

① 観光情報システムの構築…あらゆるメディアとの連携

- ・二見をはじめ、伊勢市内には現在、観光材料となり得る様々

なイベント、地域資源がある。こうした情報の効率的発信のためにはあらゆるメディアと連携が必要である。iTV や伊勢新聞、三重テレビ等といった地元メディアだけでなく、全国からの観光客誘致のためには、全国紙や雑誌も含め、もっと広域的情報発信システムを構築しておく必要がある。ご遷宮という行事は、そのためには最適で、これを通してあらゆるメディアとの連携を深め、ことあるごとに遷宮以外の観光情報に関しても発信、広報してもらえる関係を構築しておくことが大切である。

(3) 集客交流の推進

① 集大会の誘致…(社)伊勢志摩観光コンベンション機構との連携強化

・「県営サンアリーナ」という全国大会が開催できる大規模なコンベンション施設があり、観光がらみの大会誘致には良い立地条件にある。各種団体の大会を積極的に誘致するとともに、伊勢志摩観光コンベンション機構との連携強化により、1泊して伊勢市内の観光周遊を楽しめるようなシステムを構築してもらいたい。

② 教育旅行の誘致…伊勢志摩学生団体誘致委員会との連携と

受入態勢の整備

・教育という範疇で言えば、修学旅行だけでなく、林間・臨海学校、クラブ・サークル・ゼミなどの合宿、スポーツ大会、文化大会、教員研修大会等幅広い旅行や大会が考えられるので、行政としても広い視野で誘致を進めていくと同時に、受け入れ態勢の整備も進めてもらいたい。また、伊勢志摩学生団体誘致委員会が作成した伊勢志摩地区で体験できる各種事業を掲載した小冊子があり、これをもとに教育旅行の誘致活動を推進するとともに、同委員会とも連携していく必要がある。ただ、同委員会は鳥羽の離島振興に力点を置いているため鳥羽中心のモデルコースづくりになっていることから、伊勢市としては提供した資金の割にはメリットがあまりないのではないか。

6 広域連携と国際観光の推進

(1) 広域観光交流の推進

- ① 広域連携の推進…鳥羽市、志摩市、南伊勢町をはじめとし、東紀州地域、中勢地域等とも連携を図る
 - ・ 県外他地域の人にとっては「伊勢志摩」でひと括りのイメージができているため、鳥羽市、志摩市、南伊勢町と情報交換

をし、連携を図ることで相互発展につなげる必要がある。

- ・東紀州では熊野古道が世界遺産に登録されたこともあり、訪れる観光客は増えている。ただ、東紀州地域には宿泊施設が少ないので、今まではこの地域の観光客は紀伊勝浦方面へ流れることが多かった。高速道路も必要だが、この地域への観光客の足を伊勢へ向けさせるためには、東紀州地域との広域連携も必須条件である。

- ・津の大門商店街では二見と同じように「ひな祭り」を実施し始め、また松阪では修学旅行誘致に取り組みは始めている。こうしたことから、中勢地域との広域連携も必要になっている。

② ゆかりの地との連携…三遠南信地域や京都、奈良、和歌山等、

歴史的につながりの深い地域とも連携を図る。

- ・ゆかりの地との連携を深めることで、観光客の選択肢を広げ、旅行企画商品や観光モデルコース作りの材料とすれば、観光の新しい切り口が創出できる。

- ・三河、遠州、長野県南部、京都、奈良、和歌山といった大雑把なくくりだけではなく、「この都市(町)との連携」という

ピンポイントの連携も必要である。

例えば、キーワードによる括りは以下のようなものがある。

ア) 倭姫命と元伊勢

○丹後一宮(籠神社)○京都府大江町(元伊勢神社)○米原市
(頓宮)○甲賀市(頓宮)一宮市(酒見神社)○瑞浪市(天神神社)
○岡山市(伊勢神社)○和歌山市(日前神社)○宇陀市(阿紀神
社、篠畑神社)○桜井市(大神神社、檜原神社、与喜天神社)

イ) 夫婦岩

○北海道様似町○北海道幌加内町○北海道富良野町○北海
道和寒町○北海道斜里町○北海道厚岸町○青森県風間浦村
○青森県中泊町○岩手県一関市○岩手県二戸市○岩手県住
田町○岩手県丸森町○栃木県日光市○群馬県水上町○新潟
県上越市○新潟県佐渡市○石川県志賀町○福井県福井市
○福井県若狭町○長野県中野市○長野県南牧村○長野県小
川村○岐阜県中津川市○滋賀県近江市○大阪市高槻市○兵
庫県宝塚市○岡山県備前市○岡山県高梁市○兵庫県江田島
市○広島県東広島市○山口県下関市○山口県周南市○徳島
県鳴門市○愛媛県松山市○愛媛県八幡浜市○愛媛県鬼北町

○高知県香南市○高知県室戸市○高知県大豊町○福岡県黒木町○福岡県志摩町○福岡県新宮町○福岡県福岡市南区○長崎県長崎市○長崎県佐世保市○長崎県武雄市○佐賀県有田町○大分県佐伯市○大分県国東町○熊本県あさぎり町○鹿児島県中種子町○沖縄県那覇市

ウ) ひなまつり

○津市(大門)○松阪市○伊勢市(おかげ横丁)○伊賀市○いなべ市北勢町(阿下喜)○豊田市(足助)○高山市○千葉県勝浦市○京都市下京区○和歌山市○鳥取○柳川市○徳島県勝浦町○日田市○鴻巣市○群馬県伊香保町○さいたま市岩槻区

エ)七夕まつり

○仙台市○平塚市○千葉県茂原市○埼玉県狭山市(入間川)○前橋市○桐生市○秋田県湯沢市○安城市○一宮市○八戸市○清水市○埼玉県小川町○東京都杉並区阿佐ヶ谷○水戸市○福島県いわき市○茨城県土浦市○石川県珠洲市○富山県高岡市○山口市○函館市○神奈川県相模原市

オ) 蘇民将来

○京都八坂神社(祇園社)○長野県上田市信濃国分寺○熊野

三山○埼玉県武蔵一宮神社○広島県素盞鳴神社○岩手県妙見山黒石寺○鳥取県須佐神社

カ)伊勢音頭

○秋田県一口市○愛媛県西条市○富山県大沢野町○青森県津軽地方○島根県○福岡県○鹿児島県○兵庫県○岐阜県○新潟県○長野県○大阪府○埼玉県

キ)「浦」

○広島県鞆の浦○和歌山県和歌の浦○熊本県妙見浦○京丹後市夕日ヶ浦

ク)入浜式塩田

○山口県防府市○香川県宇多津町○兵庫県赤穂市○徳島県門市○岡山県倉敷市

ケ)西行法師

○吉野山○高野山○嵯峨・小倉山○鞍馬山○鎌倉○平泉○香川県坂出市(崇徳上皇陵)○大阪府河南町(弘川寺)○片瀬市○高雄山・神護寺○山梨県南部町

③ 宮川流域ルネッサンス事業との連携

・「各地域フィールドマップ」は今までの観光地図に載ってい

ない情報や場所も掲載されているので、新しい切り口の観光案内として、活用する。

- ・宮川流域案内人を観光ガイドとしてもっと積極的に活用し、養成講座への参加を呼びかけ、人材育成に力を入れていく必要がある。

- ・現在は宮川流域ルネッサンス事業に携わっている会員と地元住民中心に募集されている各種イベントを、観光客まで範囲を広げ、観光客誘致企画として宿泊とタイアップさせていく必要がある。

(2) 観光の国際化に向けて

① 外国人観光客の誘致(ビジット・ジャパン・キャンペーン)...

伊勢を日本の入口として世界へ情報発信し、

“OISE-MAIRI” を積極的に発信する。

- ・外国人観光客数は伊勢・二見への来訪者も増加傾向にある。

外国を旅する魅力の一つは異文化に触れることであり、そういう意味では「伊勢神宮」は外国人にとって宗教という枠組みを外して恰好の興味の対象なので、PR する価値は大きい。

ただ、「お伊勢参り」の歴史文化と習慣を、外国人にどうわか

りやすく説明するかは難しい問題だと思う。この障壁がクリアできる方途が見つかれば、伊勢は京都に次ぐくらいの外国人に人気のスポットになる。

② 地域情報の発信…多言語による情報発信

- ・伊勢市観光協会の HP は日本語のほかに、英語、中国語、韓国語での閲覧が可能になっていて、多言語による観光情報発信という意味では市役所の HP より進んでいるが、より完成度の高めていく必要がある。

- ・中国、韓国からの観光客は、団体から個人客にシフトしながら増加していく傾向にあるので、中国語、ハングルによる情報発信は必須となってくる。

③ 受入態勢の整備…外国人サインやパンフレットの整備、国際交流協会とのタイアップ

- ・二見町においても外国人観光客の姿を数多く見るようになってきたが、こうした方々を案内する誘導サインや施設に外国語表示がないので、不便を感じている外国人も多いので早急な対応が必要である。

- ・パンフレットも「Traveller's Passport」や賓日館のチラシ

等に英語版があるが種類は少ない。観光ボランティア案内人も英語や中国語で案内できる人を養成していく必要がある。

④ 国際交流の推進…国際イベントや国際会議の誘致、市民レベルの国際交流

・近くに同時通訳機能を備えた国際会議場を擁する県営サンアリーナがあるので、国際大会の誘致をもっと積極的に行うべきである。現在、新体操の世界大会が予定されているが、スポーツ大会だけでなく、文化フォーラムの開催も含めた総合的誘致活動が必要である。